

營
繕
寮

沿革ノ概畧

明治元年戊辰二月五日會計事務司ヲ置キ營繕ノ事務
ヲ掌管ス_レ同四月二十一日太政官中更ニ七官ヲ建テ七
官中各司司ヲ置ク會計官其一ニ居リ六司ヲ管隸ス營
繕司其一トス署ヲ西京旧修理職役所ニ置ク後千支署
ヲ大坂川寄旧破損方役所_四月十_一及ヒ東京吳服橋内旧
幕府作事役所_八月十_二設ク二年己巳二月三日玉川神
田兩上水ノ修繕工事及ヒ嘗テ商法司屬管セル大阪難
波村製革場_三月二_日ヲ管ス七月會計官ヲ廢シ大藏省ヲ
建ルヤ之ニ隸ス尋テ_八月大藏民部兩省併合スルヲ以
テ又之ヲ民部省土木司ニ併屬ス三年庚午七月兩省分
離シ日營繕事務ヲ分ツテ再ヒ營繕司ヲ置キ之ヲ大藏

省ニ隸屬ス尋テ八月十日神戸港鋸木器械所ヲ本司ノ所
管トス十一月西京紫宸清涼神嘉ノ三殿及ヒ禁中大宮
仙洞ノ三宮外面ニ屬スル修繕ヲ管理ス其内面ニ屬ス
ル者並ニ修學院離宮ノ二所モ一所金千兩以上ノ費用
ヲ要スル者ハ之ヲ管理ス十二月二十二日山陵修補ノ
事務ハ之ヲ土木司ニ屬ス四年辛未三月皇城内外掃塵
除草ノ事ヲ管理ス八月本司ヲ廢シ營繕寮ヲ置キ二等
寮ト為ス九月皇城内ニ引注スル玉川上水ノ修理ハ工
部省土木寮ニ屬シ該寮中橋梁ノ工事ヲ割キ之ヲ本寮
ニ屬ス尋テ八月十日本寮ヲ廢シ土木寮ニ併ヤ之ヲ大藏省
ニ隸屬ス五年八月外部二十一門ヲ毀テ内部九門ノ修
繕ヲ管理ス後八月陸軍省所轄地接近ノ五門ヲ該省ニ
屬シ修繕セシム九月府下民屋建築道路改正ノ為メ大

藏省設置ノ建築局ヲ土木寮ニ併ヤ之ヲ管理
ス七年一月内務省ヲ置カルヤ又之ニ隸屬
シ尋テ營繕事務ヲ今テ之ヲ工部省ニ隸屬ス
之シテ我省所轄ノ初ノトス乃チ之ヲ製作寮
ニ屬シ該事務ニ關スル建築局及ヒ深川セノ
ント製造所辰ノ口及ヒ猿江木材圍場モ亦隨
テ屬ス後チ之ヲ出張所ト改稱ス八年二月
二日寮中更ニ營繕課ヲ置キ其事務ヲ今チ設
計督役製回監材ノ四科トス尋テ六月廿二日
本省ニ屬シ營繕局ヲ置ク後十一月廿五日復
舊之ヲ
陞シテ二等寮トシ該事務ヲ調理セシム然リ
而シテ七年一月巳前ハ姑ラ之ヲ舍キ我省
所轄已降支出スル所ノ經費ヲ調査スルニ總

計金九拾萬三千百四拾圓八拾六錢七厘洋銀
走万四百五拾五弗三拾四仙其詳細ハ本省經
費諸表ニ記載スルヲ以テ爰ニ之ヲ畧ス

營繕事務及出納

營繕事務曩キニ我省ノ所轄トナルヤ乃チ之ヲ製作寮
ニ付シ其事務及ヒ經費ヲ區畫シテ各々之ヲ管掌セシ
ム後チ之ヲ本省ニ屬シ尋テ^{明治八年十一月}營繕寮ヲ置キ之
ヲ管理セシム其本周年間逐次施行スル所ノ工事其他
若干アリト虽氏只其綱領ヲ撮摘類聚シテ都テ三款ト
ス而シテ各院省等ノ建築ハ我省ノ擔當辦理スル所ト
虽氏其經費ニ至テハ各々該廳ニ係ルヲ以テ自他ヲ區

分シテ以テ其顛末ヲ示スヘシ然レ氏文部省所管ノ學
校經營ノ如キハ諸官廳ト其体裁ヲ異ニシ獨リ三費ヨ
リ支出スル而已ニアラス授業或ハ寄附金ヨリ該費一
部ニ加フルモノアリ況ンヤ實際ニ臨ニ各科ノ經驗ニ
依リ其意見モ亦參酌セザルヲ得ザルモノ不少且ツ内
務省新築ニ於テモ定額常費ヨリ支出スル一廉金千圓
未滿ノモノ其千圓以上ト虽氏修繕ニ屬スルモノハ三
費ヲ論ヤス該省ニ於テ處分セント欲シ兩省ヨリ稟請
ノ未裁可^{文部省九年四月廿六日}アリ故ニ該工事ニ係
ルモノハ爾後之ヲ兩省ノ處分ニ任ス然リ而シテ本周
年間ノ經費ハ明治七年十月中公達ニ基キ設計セシム
ルニ定額常費金五万八千五百六拾八圓六拾七錢四厘
ナリ後チ之ヲ改メ定額常費五万八千四百八拾七圓拾

貳錢壹厘額外常費金八拾壹圓五拾五錢三厘ニシテ其
漸次支出スル所ノ現費總計金五万三千五百三拾八圓
九拾五錢三厘ナリ之ヲ目途ニ比較スレハ金五千拾圓
三拾四錢三厘ノ剩餘ヲ生ス假リニ七年七月ヨリ八年
六月マテ拾金六万三千五百貳拾五圓六拾貳圓ヲ前一周年ト見做シ之ニ
比較スレハ尚金九千九百八拾六圓六拾五錢壹厘ヲ減
スルモノハ時ニ佐賀騷擾アリ尋テ臺灣ノ役ニ際シ諸
般ノ工事自ラ減少スルカ為メニ八年一月以降大ニ官
員ヲ減少シ或ハ雇外國人滿期解役スルモノアレハ十
リ然レ氏八年一月ヨリ今六月ニ至ル半年費額ニ剩
シニ倍ノ額拾金五万四千八百三拾圓九錢貳厘ヲ以テ全一ケ年ト見做シ
之ニ比較スル片ハ反テ金千七百八圓八拾六錢壹厘ヲ
増加スルモノハ戡定ノ後千各所ノ工事漸次増殖スル

カ為メニ官員モ亦増加セラルヲ得サルヲ以テナリ

各廳新築

東京府下各廳新築明治八年七月一日已降漸次工ヲ起
シ九年六月三十日ニ至リ落成スルモノ或ハ七年七月
已降工ヲ起スト虽氏該年間竣工ニ至ラズシテ本周年
間ニ至リ全ク落成スルモノヲ稽查スルニ其數都テ貳
拾九箇所ニシテ其經費總計金拾壹万七百八拾貳圓八
拾五錢九厘トス而シテ我カ省ノ經費ニ係ルモノニ拾
三個所ニシテ合金八万貳千五拾六圓四拾三錢五厘ナ
リ他廳ニ係ルモノ六個所ニシテ合金貳万八千七百貳
拾六圓四拾貳錢四厘ナリ其工事ノ顛末經費ノ増減等
ニ至テハ各々之ヲ下表ニ示スト虽氏内務省土藏ノ如

キハ金九千五百八拾圓四拾八錢ヲ目途トシ着手スト
虽氏其費ス所ノモハ金七千五百拾壹圓三拾八錢三厘
ニ止ル之ヲ目途ニ比較スレハ金貳千五百貳拾九圓九
錢七厘ノ減額ニ至ルモノハ是レ他十レ八年七月三日
該省祝融ノ災アリ之カ為メ工業中烏有ニ属スルモノ
貳棟ニシテ其已ニ費ヤス所ノ金三千貳百四拾壹圓三
拾貳錢ハ全ク徒費ニ属シ工程未ク竣ラステ停工ス
レハナリ且電信寮修技費新築及工學寮大學校礎石据
付赤羽製作所機械仕上所内外石下水築造モ亦之ヲ目
途ニ比較スレハ許多ノ減額ニ至ルモノハ中間其規制
ヲ改メ之ヲ減縮シ或ハ在来古石ヲ資用スルカ為メニ
經費モ亦自ラ減額スル所以ナリ然リ而シテ工學寮生
徒館ニ至テハ初該寮中建築科ヲ置キ一切ノ工事ヲ督

ヤシムルモ虽氏管繕事務本省ニ属シテヨリ該科ヲ廢
シ更ニ管繕局ヲシテ之ヲ督ヤシムルノ際該館ノ基礎
已ニ工ヲ卒ヘ其支出スル所ノ金千八百拾壹圓三拾九
錢九厘ニ至ルヲ以テ表中示ス所ノ現費金貳万五千百
六拾三圓七拾七錢四厘ナリ始終ヲ通算スレハ都テ
金貳万六千九百七拾五圓拾七錢三厘ナリ鑛山本寮モ
亦目途外資用スル所ノ古木古瓦等代價九六百四拾六
圓六拾六錢ナリ之ヲ合算スレハ總計金壹万零六百拾
四圓八拾八錢ヲ以テ全ク落成ス其建築半ニシテ本年
六月三十日ニ至リ未ク竣工ニ至ラサルモノハ只其設
計及ヒ工程等ヲ掲ケ他日奏功ヲ竣テ之ヲ詳悉ヤント
欲ス然レ氏渣々タル小修繕ニ至ハ一々之ヲ掲クルニ
違アラズ今之ヲ通算スルニ總テ二十二箇所ニシテ此

起工年月日	工程	月途金	支出金	計支
明治九年正月廿四日	九三歩	三十五二二九	七四六二四	
今九年正月廿四日	九三歩	二九二九九	五五〇〇〇	
今九年四月十七日	九志歩五厘	二五〇〇〇〇	三一六八四九	
今九年六月九日	九五歩	三五〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	
今九年六月廿四日	九志歩	一五〇〇〇〇	一一一三五	
今八年四月十三日	九九歩五厘	二九三九九五	二一四六九三	
今八年五月廿六日	九九歩	一一九三六五	九〇二八六六	
				二四八六八六六
				一四六六四一

本省所轄各所建築半途一覽概表

廳名	本省	全	工學寮	全	製作寮	全
建築主名	本省建築	雇員寮	大學校	教師館	教師館附屬	赤羽製作所機械全機組五馬力並倉
起工年月日	明治九年正月十三日	今九年六月廿四日	今八年四月一日	今九年五月十八日	今九年五月十八日	今八年三月二十日
工程	九五歩五厘	九三歩	九八歩余	九五歩	九五歩	九三歩
日途金	四四九二五	九二八五九	一〇四〇〇〇〇	二二三八三	四二二〇〇	三三三九三
六月支	一十〇〇〇〇〇		八四四七六八			三六三七八三
計支						一〇〇〇六
一八二〇五五七六六						
一三二六八一八八一						

府下建築

東京府下第一大區京橋以南煉化石室建築及道路改

正八明治五年三月起工以降順次施行スト虽ハ官民
 兩築區分レ人民ノ望ニ適スルヲ要レ或ハ燼餘ノ家
 屋土蔵等撤却ノ緩急アルカ為メニ素ヨリ竣工ヲ期シ
 難シト虽氏若シ目的ヲレテ大ナル蹉跌ナカラシメハ
 来九年十月ヲ以テ竣工スヘシ然レ氏旧家屋等撤却ス
 ルハ人情ノ難スル所ニレテ不得止モノアレハ假令一
 度期ヲ下スト虽氏因循固着夫カ為メ工程ヲ過マルモ
 ノ豈少々ナラシヤ是レ此ノ工ノ一大病患ト云フヘシ
 加之ナラス煉化石室ニ沿ヒ炊爨所等自築スルモノ往
 々粗造ニレテ火災ニ堪ヘ難ク或ハ既成ノ家屋濫リニ
 規模ヲ豪換スルモノ尠ナカラズ是レ全ク人民旨趣ヲ
 辨ヤス或ハ貧富ノ致ス所ト虽氏火災延焼ノ患ハ勿論
 将来ノ保存ニ於テ大ニ關涉シ到底本旨ニ乖戾スルヲ

以テ八年八月中内務省ト協議ノ末自築制限法ヲ設ケ
尚東京府ヲレテ嚴重保護セシム其制規ニ違戾スルモ
ノハ盡ク之ヲ撤毀セシメント欲ス然リト虽氏既成ノ
家作今復之ヲ撤毀スルハ下民ノ艱苦ノミナラス煉化
ノ空屋ヲ増殖スル所以ニレテ是亦勢ノ不可止モノア
リ故ニ唯其甚シキモノヲ除クノ外ハ暫ク現状ヲ存レ
一般ノ建築落成ヲ期トシ漸次修理或ハ改築レテ以テ
專ラ制限ニ則トラントヲ要セシム然リ而レテ本周年
間ノ工程ヲ按スルニ家屋九貳分八厘四毛改正道路九
貳分五厘ニレテ落成ノ末該府ニ交付スルモノハ家屋
四拾四棟道路八箇所ナリ其道路改正及家屋建築ノ為
メ上水樋修繕費ハ道路費ニ充ツヘキ旧町會所積金五
万圓ノ内貳万五千六百圓餘東京府ニ返付セシヲ以テ

今後上水樋費ハ該府ヨリ支給セシメント欲スレ氏即
今該費ニ充ツヘキ金額ナキカ為メニ道路修築費ヨリ
支給ヤシトヲ乞フ故ニ該費ヲ以テ起工セシム及ヒ道
路修築區畫ノ内周圍河岸石垣或ハ柵等壞崩スルモノ
アリ其修築費用ヲ概算スルニ九金四千百貳拾八圓餘
ナリ是亦道路費ヨリ支出起工セシム此役ヲ督スルモ
ノハ営繕權助上田可貞及ヒ大属以下九テ三拾名ナリ
其支出スル所ノ費額總計左ノ如シ

家屋建築費

伺清高金百八拾四万九千七百拾九圓貳拾五錢八厘ノ内

一金拾五万千四百圓八拾八錢九厘

内

自八年十月
至九年六月

金七万九千五百九拾九圓九拾七錢六厘
金七万貳千四百四圓九拾壹錢三厘

築品代
諸工料

道路修築費

同濟高金拾四万千八百八圓四拾六錢，內
一金八千三百七拾九圓六拾三錢三厘

自八年七月
至九年六月

內

金四千八百四拾八圓五拾四錢九厘

築品代

內 金一千三百拾七圓拾五錢壹厘

八年六月前
未決算分

金三千五百三拾壹圓八錢四厘

諸工料

內 金貳千六百拾五圓六拾七錢七厘

前同斷

官費

同濟高金拾三万三千三百貳拾五圓，內
一金三万四千四拾四圓三拾七錢三厘

自八年七月
至九年六月

內

金七千貳百五拾五圓六拾六錢四厘

倉庫取毀料

內 金貳千七百四拾圓六錢四厘

八年六月前
未決算分

金貳万三千七百八拾八圓七拾錢九厘

燒殘家屋取
毀料

內 金壹万八千四百七拾八圓六拾七錢壹厘

前同斷

假家作取毀費

同濟高金八千三百九拾壹圓六拾錢，內
金千八百八拾貳圓九拾壹錢六厘

自八年七月
至九年六月

京橋以南竣工煉化家屋及道路概表

區	畫	家屋	業	級	棟	數	竣工道路	東京府へ引渡
第一	二					一	三拾間	明治八年九月十六日
第二	二					一	町	明治九年五月廿一日
第三	二					一	町	四月十七日
第四	三					三	南紺屋町	全
第五	三					三	新肴町	全
第六	三					三	銀座志丁目	全
第七	三					三	武丁目	全
第八	三					三	全	全
第九	三					三	全	全
合計						四四	町全	八

官員以下賞與并疵傷賑恤

工學寮大學校其他建築ニ服スル官負以下非常、勉勵スルヲ以テ將來勸奨、為メ賜與スル所ノモ、ハ都テ八名ニシテ中録市川政徳權中録中村曉長少録鈴木忠

知權少録佐伯知義各金八圓及ヒ十四等出仕清水臯七
大栗守次郎技術二等見習中級湯川甲三雇中津忠信各
金七圓十リ此金額六拾圓及ヒ内務省祝融ノ災アルヤ
時ニ該省土藏建築ニ際シ之ニ使役スル職工人夫等速
力ニ馳來リ消防尽力尋常十リ廿七ノ百九拾八人其
賞トシテ下賜スル金額拾四圓八拾錢十リ或ハ各所建
築中工事ノ為メ過テ疵傷スルモノ拾五人死スルモノ
尙人各々例ニ照シ賑恤スル金額百三拾三圓貳拾貳錢
六厘十リ其死傷ノ輕重及ヒ金負等ハ尤ニ之ヲ掲ケテ
各自其概畧ヲ示サントス

表 恤 賑 傷 痲

建築場	傷痲所	賑恤金負被	傷人	名
京橋以南	右ノ手ノ指ヲ挫傷 右ノ手ノ指ヲ挫傷 右ノ手ノ指ヲ挫傷	八五五〇 四三六三 二〇〇〇	明治七年四月廿六日 九年四月廿七日 八年八月二日	宮澤傳助 是立德次郎 秋葉忠助
煉化家屋	右ノ手ノ指ヲ挫傷 右ノ手ノ指ヲ挫傷 右ノ手ノ指ヲ挫傷	七〇〇〇 一五〇〇 一五〇〇	七年一月廿五日 三月廿一日 三月廿一日	大澤善助 三田善助 中村善之助
赤羽製作所	左ノ中指環指第三節欲壞 左ノ中指環指第四節欲壞 左ノ中指環指第五節欲壞	二八六八 二五〇〇 二五〇〇	八年八月廿八日 九年三月廿二日 九年三月廿二日	高橋福松 柳川茂兵衛 山崎孫兵衛
紙幣寮製造所	頭上打込長二寸七分 頭上打込長二寸七分 頭上打込長二寸七分	三〇〇〇 三〇〇〇 三〇〇〇	五月廿三日 六月五日 六月五日	星野仙吉 增岡勇吉 豐島與吉
工學寮大學校	左ノ中指挫傷 左ノ中指挫傷 左ノ中指挫傷	二五〇〇 二五〇〇 二五〇〇	八年九月十五日 八月十八日 八月十八日	鶴田嘉兵衛 植村金太郎 加藤岩次郎
内務省土藏	身體強打一且久死 身體強打一且久死 身體強打一且久死	一五〇〇 一五〇〇 一五〇〇	十月六日 十月六日 十月六日	松井寅吉 外川幸吉 三井浅吉
紙幣寮物揚場	頭上打傷一寸肉破 頭上打傷一寸肉破 頭上打傷一寸肉破	一七五〇 一七五〇 一七五〇	九年十一月廿二日 九年十一月廿二日 九年十一月廿二日	植村金太郎
司法省法學教場	腰骨挫傷 腰骨挫傷 腰骨挫傷	二六二五 二六二五 二六二五	三月廿六日 三月廿六日 三月廿六日	植村金太郎
合計		二八五〇	五月十七日	

備外国人

本周年間各所建築工事ノ為ニ使役スル所ノ備外国人
都テ四名ニシテ此ノ給料合計金六百圓ナリ之ヲ明治
八年六月三十日ノ現員ニ比較スルモ更ニ増減スルモ
ノ上ニ然レ氏之レヲ前一周年ニ比較スレハ許多ノ減
員ニ至ルモノハ臺灣
事件戡定後更ニ諸般
ノ工事増殖スト虽氏
今又外人ヲ要セスレ
テ充分ノ功用ヲ為ス
ヲ以テナリ工事ノ進歩モ亦以テ徴スルニ足ルヘシ

備外国人々負表

職名	名	人	名	給料
建築家	佛蘭西	ドボアンビール	金三百五拾円	
造家職工長		エドマン・トラスチニ	金百五拾円	
煉化職工		フランシス・ヒュー	金百円	
合計		三人	金六百圓	